



## 意欲的な勉学のすすめ

理事・副学長(学術担当) 神 永 文 人



今春入学された1年生諸君は、すでに半年間の講義を経験し、大学の講義にも慣れた頃と思います。この半年間は、学部によっては、すでに専門科目が始まっていますが、ほとんどは教養科目の履修であったと思います。教養科目については、自分の専門科目から見ると「つま」のような存在で、卒業のため決められた必要単位をただ取れば良い科目であると考えている学生諸君も多いと思いますが、そうではありません。高校では、理系・文系と区分され、受験に必要な科目を重点的に学習するという、少し偏った教育を受けてきた学生が多いと思います。社会に出るとそのような区分ができないことにしばしば遭遇します。教養科目は、そのようなときに必要となる人間力を養うために必要な科目ですので、後期からもぜひ意欲的に勉強してください。

強めてください。

昨今、日本の大学生は、海外の大学生と比べると、積極性と自己主張力が欠けていると色々な所で指摘されています。それらは、大学教育に限らず、初等教育から関係する内容ですので、簡単な解決方法はありませんが、これからの勉学に関して私が思っているその解決のヒントとなりそうなことをここで紹介したいと思います。好きなことや得意なことに積極的になることは簡単ですが、勉強に積極的になることはなかなか大変です。そのようなときは、勉強する上でのなんらかの動機付け（高校の時は大学入試という強い動機付けがあった）を行うことが必要であると思います。例えば、卒業してからの自分の将来を頭に描いて、そのために何を勉強すべきかを時々考えることが、勉強する上で良い動機付けになると思います。自己主張力が足りない主な原因として、自分の能力に自信が無く、主張してそれが間違えていたら恥ずかしいと考える傾向があることが上げられます。皆さんは、すでに多くの知識を持っており、自信を持って主張できるはずですので、「恥は若いうちにかくのがいい」というぐらいの気持ちで自分の考えをどんどん主張して行ってください。ただ、しっかりとした主張ができるための知識とその応用力を備えていく努力ももちろん不可欠ですので、そのような観点からも、これからの大学での勉学に意欲的に取り組んでください。

ローザ・プルムラ  
第45号

(平成24年度10月発行)

### 目次

巻頭言 意欲的な勉学のすすめ (副学長 神永文人).....	1
平成23年度推奨授業表彰.....	2
平成23年度推奨授業について.....	3
ユニークな授業を紹介します！.....	4
「根力育成プログラム」の部屋.....	6
大学教育センターより.....	7
学生の声・編集後記.....	8



## 平成23年度推奨授業表彰



平成23年度推奨授業の表彰式（平成24年7月3日、学長室において）  
（前列左から 平澤剛先生、池田幸雄学長、岡山陽子先生 後列左から  
戸嶋浩明大学教育副センター長、佐藤和夫大学教育センター長）

推奨授業表彰制度は、各年度終了後、教養科目の中から推奨授業を選定し、担当教員を表彰することによって、授業の質的向上を図ることを目的に、2001年度に制定されました。

推奨授業は、専任教員が担当するすべての正課授業を対象とし、「推奨授業推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」など教育上の多大な努力や優秀な教育技術等を総合的に評価し、各専門部会委員長の推薦により、大学教育センター基礎教育運営委員会で選定されます。平成23年度推奨授業には、次の2つの授業が選定されました。

### ①「数学（微分積分Ⅱ）」

平澤 剛 先生（工学部）

自然系基礎教育専門部会長 岡田 誠 先生

**推薦理由：**平澤先生は、工学部1年生向けの分野別基礎科目として、数学（微分積分Ⅱ）を一昨年度に引き続き開講されています。学生アンケートのクラス満足度を見ると、一昨年度は0.86であり、今年度は0.91と上昇して、安定して学生評価が高い授業となっています。この値は、クラス満足度の平均値が0.7以下の自然系科目としては非常に高い値です。昨年度の自然系教養科目でクラス満足度が0.9を超えた授業は当授業を含め4つのみであり、当授業が最も高い値でした。また当授業は、適度な難易度を持っている上、予復習時間が十分に確保されている様子が、学生アンケート結果より見て取れました。以上より、当授業は推奨授業としてふさわしいと判断いたしました。

### ②「総合英語（レベル4）」

岡山 陽子 先生（大学教育センター）

総合英語教育専門部会長 福田 浩子 先生

**推薦理由：**岡山先生の授業は、「英語は試験のためのものではなく、コミュニケーションの道具である」、「英語力を伸ばすには、英語を使ったコミュニケーションの楽しさを味わう機会を作り、内発的動機付けを行う」という考えに基づき、日本人学生にありがちな、間違えてはいけない、恥ずかしいという気持ちを緩和させ、コミュニケーションを促すための工夫と配慮に満ちています。また、先生は、学生のやる気を持続させるため、ジャーナルを使って常に学生を励まし、伴走者としての役割も果たしておられます。まさに学習者中心主義を実践した授業と言えるでしょう。授業外の学習時間が多いのにクラス満足度が非常に高いというアンケート結果は、このような工夫と努力から生まれたものだと思います。以上のことから、この授業を推薦いたしました。

# 平成23年度推奨授業について

## ①自然系基礎教育専門部会より

「数学（微分積分Ⅱ）」 平澤 剛 先生（工学部）

**授業概要：**「微分は1次近似であり、積分は1次微小量の総和である」ことをモットーとし、そのためには多次元量をひとまとめにして扱う線形代数の必要性・重要性を理解することを目標に、2変数の微分積分の基礎事項を学習する。

### 推奨授業を受賞して

授業には「生きる！」というメッセージを胸に臨んでいます。今回の受賞は、それが学生に届いたことが確認できたような気がして嬉しいです。数学は、思考の格闘と血のにじむような努力を通じて、多くの人の手により洗練されてきた命がけの歴史である。生きていく力の源である自信やそこから挑戦していく心が数学を通して伝わればと願っています。 (平澤 剛)



## ②総合英語教育専門部会より

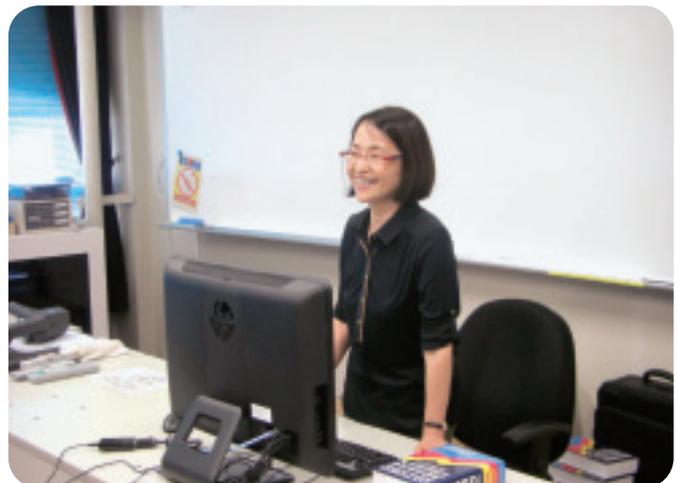
「総合英語（レベル4）」 岡山 陽子 先生（大学教育センター）

**授業概要：**The aim of this course is to give students an opportunity to learn and practice language by exploiting individual/group tasks and completing language learning projects. Students will develop advanced conversation skills and participate actively in problem solving tasks/projects with an emphasis on production skills.

### 推奨授業を受賞して

この度は、このような賞をいただき、ありがとうございました。英語学習の成果が○×でのみ判断されるのではなく、実際に読んだり書いたり聴いたり話したり、に使える、ということを実感していただければ、と総合英語レベル4の授業を展開してきました。このような授業は学生の皆さんの協力なしでは成り立ちません。茨城大学のすばらしい学生諸君に感謝です。

(岡山 陽子)



## ユニークな授業を紹介します！

茨城大学の教養科目には、ユニークな授業があります。今回は、その中から4つの授業について、先輩から紹介してもらいました。

### ①「キャリア形成と自己実現」 (担当教員：望月厚志先生)

#### 履修して良かった授業

理学部3年 菊田 亮太

総合科目「キャリア形成と自己実現」の紹介をします。この授業はその名のとおりに、自分の将来や働くことについて考える授業です。この授業が他の授業と違うところは、ただ知識をつけるのではなく、自分で考える力をつけることができる点です。

前期と後期に両方開講されていて、前期は本やビデオを通して、働くとは何か、やりがいとは何か、自分がどう生きるのかなどについて、ディスカッションしたり簡単な意見発表をしたりします。後期はオムニバス形式で講師を招き、ある会社で人事をされている方や、あるNPO代表の方などの講義を通して、自分の過去、現在、将来について考える方法、目標達成の方法などを学びます。答えではなく、問題を解決する方法を学ぶところが魅力的だと思います。知らない人と突然ディスカッションしたり、突然意見を求められたりすることもあり、いい刺激にもなります。私が履修して良かったと思える授業です。



### ②「水戸芸術館で学ぶ、音楽、演劇、美術」 (担当教員：谷川佳幸先生)

#### Let's find a new world of art together!

教育学部2年 市毛 敦子

「芸術」と聞くと、どうしても難しかったり取りつきにくかったりするイメージを持つ人が多いと思いますが、そんなイメージを一変させてくれるのが「水戸芸術館で学ぶ、音楽、演劇、美術」という授業です。この授業はユニークな講義形式で、水戸芸術館の音楽、演劇、美術の各分野の専門の方が、それぞれの分野の芸術の成り立ちや歴史について、講義をしてくださいます。その中では、「これも美術なの!」「この曲良いなあ」など、驚きや新たな発見が沢山あります。また、芸術館で行われる音楽会や演劇、美術展を実際に観に行けるのも、この授業の大きな魅力です。実際に本物の芸術を観たり聴いたりすることで、難しいと思っていた芸術をより身近に感じることができます。私はこの授業を履修して、今まで関心がなかった分野にも興味を持つようになりました。「芸術」を知るきっかけを与えてくれるのも、この授業の良いところだと思います。

皆さんも是非、この授業で芸術の世界に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。



## ③ 「アメリカ文化理解」

(担当教員：君塚淳一先生)

## そうだ、アメリカへ行こう！

教育学部 2年 浅川 和輝

本授業は、アメリカの大学へ1ヵ月程留学ができ、総合科目の単位を得ることができる授業です。後期から月に1度程講義があり、昨年度参加した先輩方から直接話を聞いたり、知識・経験のある先生からの学習への取り組み方や海外における危機管理についての事前指導、現地学生を対象としたプレゼンの準備、さらに旅行書類等の準備も全体で一緒に行うので、語学留学に向けて安心して準備ができます。本授業最大の特徴は、大学講義のクラス編成が茨大生だけではなく、他国出身の学生を交えて行われることです。そのため様々な価値観や文化に触れることができ、貴重な経験ができます。また、現地学生とルームシェアをして過ごすので、授業外でも英語を使っての学生交流ができるのも魅力的です。留学終了後は、語学研修の一環としてアメリカ国内の旅行があり、サンフランシスコ大学との学生交流や日系博物館訪問など充実した内容になっています。

英語のスキルを上げたい、友達を作りたい、とにかく海外に行ってみみたい学生にはお勧めの授業です。



## ④ 「アスリートの世界

～鹿島アントラーズとの提携を通して～

(担当教員：加藤敏弘先生)

## 試合観戦に行こう

人文学部 2年 渡辺 由佳

皆さんはスポーツと聞いたら何を想像しますか？陸上、球技等の運動競技だけを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。しかし、本来の意味でのスポーツだとすると少し足りません。スポーツは元々、疲れた日常から飛び出して、気晴らししたり、遊んだりして非日常を味わうことです。それ故、囲碁、百人一首、ゲームもスポーツになります。

この授業の醍醐味、鹿島スタジアムでの試合観戦。テレビでは伝わらない臨場感や、サッカーをよく知らない私でもすぐに溶け込める不思議な一体感が、「またスタジアムで観戦しよう！」と思わせてくれました。それだけでなく、サッカー以外の競技も観戦してみたいと感じました。

このようにスポーツの魅力を伝えてくれるのがアスリート達です。そこにはそのスポーツの魅力を伝えてくれるアスリート達がいて、そのアスリートを支える人々がいます。スポーツ経営についても学び、自分が知らなかったアスリートの世界を見ました。実は誰もがスポーツを経験しています。多くの人にスポーツを楽しんでほしいです。スポーツを知るために、囲碁でも野球でも、まずは試合観戦に行ってみませんか？



## 「根力育成プログラム」の部屋 ～キャリア教育部から～



茨城大学では、大学教育センターキャリア教育部を中心に、学生の皆さんの就業力育成を目指した「根力育成プログラム」を行っています。今年からは、その柱とも言えるPBL授業が開講されていますので、いくつかの授業を紹介します。

### PBL 授業ってナニ？

PBLは Problem(Project)-Based Learning の略で、一般的に行われている受け身の授業ではなく、課題を克服するための道筋を見出すことを目的に、話し合いや企画・立案を伴う能動型の学習方法です。

#### ○教養科目・就業力育成・ステップアップ系科目

「生きるということ、死ぬということ」 毎週火曜日・5限 担当教員 蜂屋 大八 先生

生きるということ、食べるということ、人を好きになるということなど、簡単には答えが見つからないテーマについて、グループワークと発表を通じて、自分の考えをより深めていく授業が行われています。



#### ○人文学部・就業力育成・根力強化プログラム

「プロジェクト実習（スタッフ編）」 2年次以上 毎週水曜日・4限 担当教員 鈴木 敦 先生

国際、地域連携、広報、震災支援などのテーマごとに、実際のイベントや成果物を創り出すための企画を練ったり、地域の皆さんの協力をいただいたり、予算案をまとめたり、実際のプロジェクトを実行することを通じて、苦労しながら楽しく学んでいます。



これらの他にも、後期からは、人文学部の専門科目として、「地域づくりプロジェクト実習Ⅰ（2年次以上）」が始まります。常陸太田市里美地区で宿泊しながらの農業体験や地域の魅力探しをする科目です。他学部学生の受講もできますので、是非、受講してください。

## 大学教育センターより

# 自分の「ストロングポイント」は？

副センター長 勝本 真

新入生のみなさん、入学してすでに半年が過ぎ、大学生活にも慣れ自分のペースがつかみかけてきた頃と思います。新学期の緊張感からも解放され、これからの自分を見つめる良い時期ではないでしょうか。

みなさんは、勉強、サークル活動、ボランティア、アルバイトなど大学生活を通して、自分の「ストロングポイント」をどのように高めていこうと考えていますか。毎日の活動が、みなさんを育むきっかけになります。24時間をどのように使っているのでしょうか。

文部科学省のHPに、大学卒業時に学生が身につけるべき「学士力」として以下の項目が上げられています。みなさんが考えている自分の「ストロングポイント」の中にこの項目が含まれているのでしょうか。

### 〔学士力に関する主な内容〕

1. 知識・理解（文化、社会、自然等）
2. 汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）
3. 態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）
4. 総合的な学習経験と創造的思考力

大学では1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するのが標準と大学設置基準21条に定められています。2単位ものの講義では、90時間の学修が必要となります。授業時間は、90分を約2時間として計算しても、2時間×15週＝30時間ですから、残り60時間は授業外に自主的に勉強しなければなりません。みなさんの生活の中では、勉強の割合はどの程度でしょう。今年度からの新しい授業アンケートの項目に、勉強時間に関する項目を加えましたので、振り返ってできるだけ正確に回答をお願いします。

「リング」や「らせん」の著者である鈴木光司は、「なぜ勉強するのか？」（ソフトバンク新書）の中で「勉強の本質は、知識それ自体の獲得ではなく、理解力・想像力・表現力という三つの能力の訓練」と述べています。時間的に余裕のある大学生活で、何を身につけて自分の「ストロングポイント」とするのか、具体的に考えてみてください。



## 学生の声

### 後学期の過ごし方について

～日立キャンパスと阿見キャンパスの先輩からの助言～

#### 後学期の生活方法

工学部 2年 横川 真衣

夏休みが終わってしまい、後学期が始まりますね。後学期になるとどこの学部も専門科目が増え、レポートを書くことが多くなり忙しくなると思います。私もあっという間に二年生になり、日立キャンパスへ移動という流れでした。そこでこの短い後学期の間にやっておくと良い事を二つ紹介します。

一つ目は教養科目をないがしろにしない事です。専門科目ではないから大丈夫という気持ちが私にはありました。しかし専門科目の基礎を教養科目でもやります。このように専門科目につながる授業もあるのでよく考えて授業を選び、勉強をすると良いです。

二つ目は資格・検定です。二年生になってなかなか授業以外の勉強ができなくなりました。一年生のうちからコツコツとやっていたらとすぐ後悔しています。後学期からでも少しずつ資格・検定の勉強をすると良いです。

後学期は本当にすぐに終わってしまいます。毎日を無駄にせず、充実した日々を送れるようにして下さい。

#### 今後につながる後期

農学部 2年 須田 千遥

後期日程が始まると、そろそろ学校にも慣れてくることですね。ですが、農学部や工学部の学生さんたちは水戸キャンパスでの生活は残り半分になります。当たり前かとは思いますが、水戸でのみ開講される授業は一年生の間にしっかり取っておくことをお勧めします。日立から水戸までは約1時間、阿見からは1時間半かかります。受講に支障が出ることは必至です。再度取るとしたら多くは4年生になってからですが、就活や卒業論文などで忙しくもありますのでなかなか難しいかと思われまます。また、他学部の学生と仲良くできる機会があるのも今のうちです。私は水戸のサークルに参加していますが、他学部の学生の体験談や考えなど、非常に良い刺激になっています。サークルや教養の授業で積極的に親しくなってみるといいでしょう。

前期が終わって自分の生活の反省点や希望が出てきたかと思えます。一旦自分の生活を見直し、今後につながるより良い学生生活への行動を今から起こしてみてください。



日立キャンパス



阿見キャンパス

## 編集後記

- 上記の先輩からの助言にあるように、後学期は本当に早いです。一日一日を大切に過ごしてください。(お)
- 牛刀割鶏(ぎゅうとうかつけい)という言葉があります。大技を手にしても、乱用することなかれ。(う)
- 「芸術の秋」「文化の秋」「読書の秋」そして「勉学の秋」を楽しみましょう。「食欲の秋」にはご注意ください！(は)

発行日 平成24年10月/発行者 茨城大学 大学教育センター 水戸市文京2-1-1 029(228)8414(大学教育センター係)